

支援業務課 NEWS

「にいがた和牛・にいがた地鶏」 を味わう夕べ開催

本協会に事務局を置いている「にいがた和牛推進協議会」では、新潟県、新潟県畜産振興協議会、にいがた地鶏普及研究会との共催により、7月26日に新潟市万代のホテル新潟において、「にいがた和牛・にいがた地鶏」を味わう夕べを開催しました。

当日は、一般公募で参加した消費者130名に主催者を加えた総勢150名ほどが参加しました。

開会の挨拶を新潟県畜産振興協議会の武藤会長（新潟県農林水産部長）が行った後、県産畜産物として統一ブランド化を図った「にいがた和牛・にいがた地鶏」や「畜産安心ブランド生産農場」についての消費者の認識を高めてもらうために、それぞれの内容とロゴマークを紹介してPRを行いました。

次いで、にいがた和牛推進協議会の斉藤幹事長の乾杯で食事会が始まり、ホテル新潟の料理長による「にいがた和牛とにいがた地鶏」を使った創作料理が次々とテーブルに運ばれ、その味わいは参加者に好評でした。

また、胎内市から提供して頂いた「山羊のチーズ」もテーブルを飾り大変喜ばれました。

このイベントで、消費者に「にいがた和牛」と「にいがた地鶏」のPRを行い、実際に味わってもらうことにより県産畜産物の地産地消を推進することが出来たと感じています。

さらに、公募で参加した消費者には、にいがた和牛を始めとする豪華景品が当たる抽選会が行われ「わいわい」と賑やかで盛会のうちに終了することが出来ました。

この企画と運営にご協力、ご支援を頂いた関係者各位には衷心より感謝申し上げます。



全国発表会へ3経営を推薦

～平成18年度全国優良畜産経営管理技術発表会～

中央畜産会・全国肉用牛振興基金協会の主催による「平成18年度全国優良畜産経営管理技術発表会」への推薦事例を7月27日の審査委員会において次の3経営に決定しました。

(酪農経営) 伊藤 芳弘 氏 (阿賀野市)

伊藤氏は平成6年に酪農3代目として就農し、経産牛45頭と水稲1.1haの経営を父から引き継いだ後、酪農部門をさらに発展させ、体型、能力両面における乳牛改良に優れた成果を上げています。飼養管理面では、カウコンフォートを向上するため飼養環境（換気、給水、飼槽、牛床）の改善を図り廃用牛のない経営を実践すると共に、9haの飼料畑を確保して飼料自給率の向上に努め、収益性の高い安定した経営を家族の信頼と協力により確立しています。

(肉用牛経営) 田口 正一 氏 (長岡市)

田口氏は和牛90頭と水稲5haの複合経営で、昭和45年に就農後、「粗飼料自給率100%」「借金ゼロ」を経営目標に掲げ、転作田や河川敷11haを利用した飼料作物生産と10haの水田での稲わら収集により乾草、稲わらの100%自給を達成し、さらに水田への堆肥散布を通じて耕畜連携による循環型農業を実践しています。さらに、施設、機械投資を抑えた経営方針のもとで、飼養牛の事故、疾病の防止により「にいがた和牛」の品質向上と増頭に努めており、自己資金を活用した段階的な規模拡大により自己資本比率がほぼ100%という安定した経営を平成15年に就農した後継者と共に確立しています。

(養豚経営) 中条 健 氏 (燕市)

中条氏は2年間の米国研修を経て、平成8年に後継者として就農し、母豚105頭と水稲1.8haの複合経営を父母と共に経営しています。昭和48年設立の燕市養豚団地組合の組合長を務め、若手リーダーとして養豚団地の運営や本年47回目となる燕市養豚共進会等の様々な活動を行うと共に、稲作農家と連携し、堆肥を活用した「土づくり運動」も進めています。経営面では、長年にわたって高位安定した肉豚上物率を維持し、HACCP方式の考え方を取り入れた生産管理方式の導入や、全農トレーサビリティシステムへの参加により消費者が安心できる豚肉生産に努め、収益性、財務内容とも優れた経営を確立しています。

にいがた和牛で親子クッキング

平成18年度地域畜産ふれあい体験交流推進事業の畜産加工調理体験教室として、去る8月19日(土)、新潟調理師専門学校にて「にいがた和牛で親子クッキング」を開催しました。

当日は、一般公募した小学生親子19組38名が参加し、牛肉の知識などについて研修した後、にいがた和牛を素材とした調理体験を実施しました。



新潟調理師専門学校 西洋料理主任教師 坪井康雄氏を講師に、「牛ヒレ肉のソテー・パジリコ風味」、「牛肉のエスニック風サラダ」、「牛肉巻きご飯」の3品を調理しました。

調理中には、講師からプロの包丁テクニックを教わったり、親子で協力しながら調理することを楽しんだりしながら、有意義な時間を過ごすことができました。

参加者からは、「家でもぜひにいがた和牛を使いたい」との意見や、「楽しく、美味しくできました」などの感想があり、にいがた和牛の美味しさを十分に堪能することができました。



ふれあい牧場バスツアー

左記事業の地域畜産体験交流研修会として、8月22日(火)にふれあい牧場バスツアーを開催し、一般公募で集まった32名が参加しました。



当日は、新潟市の榎塚田牛乳、新発田市の全酪連下越飼料基地と下越クーラーステーションのそれぞれの施設を見学した後、新発田市の中野牧場にて交流体験を実施しました。

中野牧場では、牛がどのようなエサをどのように食べるかを知るための給餌体験や、バケツを使った哺乳器具を用いて子牛にミルクを飲ませる哺乳体験を行いました。また、ブラシ掛けを行うことで子牛の可愛さ、あたたかさ、柔らかさなどを肌で感じることができました。

そして、メインイベントの搾乳体験では、子供たちが1人ずつ手搾りによる搾乳を行いました。生乳が出てくる様子や搾乳したばかりの生乳のあたたかさなどに皆とても喜んでおり、大変有意義な体験交流研修会であったと感じています。

